

【2026年度 学生交流委員会 事業計画・自己評価・事業報告】

- 目的 大学コンソーシアムひょうご神戸中長期計画Ⅱ期の柱「1. 地域の活性化に資する人材育成のための連携」の推進に向けて、以下の取組課題について事業推進を行う。
 【取組課題③】大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進
 年間を通し各委員校からの提案を協議し、大小問わず、魅力的、そして学生が地元地域への理解を深め、魅力を感じることができるプログラムを予算範囲内で可能な限り実施し、学生交流を活性化させることを目的とする。
 上記の体制の構築並びに、必要な新規のプロジェクト事業は本委員会にて実施する。

- 委員校 (全：22校) 委員長校：神戸常盤大学、副委員長校：関西学院大学
 委員校：芦屋大学、大手前大学、大手前短期大学、関西国際大学、関西学院短期大学、甲南大学、甲南女子大学、神戸大学、神戸学院大学、神戸国際大学、神戸市看護大学、神戸松蔭大学、神戸女学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学、神戸親和大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫県立大学、流通科学大学

○中長期計画Ⅱ期の取組課題/達成目標/活動指標/予算等

課題及び期待される効果	取組	達成目標	活動指標	予算（千円）
課題③ 大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進 他大学の学生との交流、社会人との交流等の場を提供することによる効果 1. 学生が地域・企業との連携・協働を通じた様々な社会貢献活動に、地元企業や自大学以外の学生と一緒に参加することで地域の魅力、または課題を直に感じ、理解を深め、そして解決策を自発的に考える効果が期待できる。	1. テーマ型の学生交流プロジェクトの実施 「WILL BEプロジェクト」キッズフェスティバル	各年参加者数 50名以上	参加加盟校数 10校/年	1,050
2. 参加した学生に様々な交流、広報活動を促すことにより、学生自らが他大学の学生と協働し、企画を実現することで主体性・実行力・発信力が向上する。また学生がメディア等を活用した周知に取り組むことで、自主性や文章構成力等を高めることを目的とする。併せてコンソの認知度を高める。 上記2つの取組により、コンソ加盟校の学生において本事業での経験が大学4年間の生活の充実に資する効果が期待できる。	2. 加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報の実施	情報公開数 200取組以上	各加盟校からの情報提供：年1回以上 情報公開数：40取組以上/年	200

【2026年度 学生交流委員会 (③取組1)】 テーマ型の学生交流プロジェクトの実施「WILL BEプロジェクト」シンキッズフェスティバル

事業計画 (4月記載)		自己評価 (12月記載)			事業報告 (3月記載)				
<p>■「シンキッズフェスティバル」の開催</p> <p>開催日：10月のINAC神戸レオネッサホームゲーム開催日 時間：未定（キックオフの2～3時間前から試合終了または終了1時間後まで） 場所：ノエビアスタジアム神戸または神戸総合運動公園ユニバー記念競技場 対象：こどもとその家族、試合観戦者</p> <p><目的> ・実践的な経験： シンキッズフェスティバルの企画・運営を通じて、実際の試合運営に関するスキルを身につけ、学生が将来のキャリアに役立つ経験をしリーダーシップを養う。 ・地域社会との交流： 学生が地域の子供や家族と交流する機会を提供し、地域社会との結びつきを強化する。 ・コミュニティの一体感を醸成： 試合とフェスを通じて、地域社会全体が一体となって楽しむ場を提供（体験）する。 ・健康促進： スポーツや文化活動を通じて子供たちの健康と体力を向上させる。</p> <p><内容> 当プログラムでは、INAC神戸レオネッサのホームゲーム自体を「シンキッズフェスティバル」のプログラムの1つとして位置付け、学生達が企画・運営に主体的に関わる取組とする。 コンソは加盟校から、プログラム全体を企画運営する学生、イベントブースに出展する学生団体、並びに試合来場者数の増加を目的としたコンペの参加学生を広く募集する。プログラム全体の企画運営学生に関しては、「シンキッズフェスティバルを成功させるためにはどうしたら良いか?」といった観点から、複数の班に分かれて活動を実施する。これらの活動の取り纏めは、INAC神戸のスタッフに依頼する。</p> <p>[活動班例(案)] ・イベント全体の調整班 ・企画班 ・INAC神戸レオネッサのホームゲーム運営サポート班 ・広報・SNS班 ・その他</p> <p><その他> ・実施コストに関して INAC神戸レオネッサは、当プログラムにおいて、施設使用料等を原則徴収しない。また、コンペの活動奨励金を負担する。 それ以外については、コンソ事業予算内で実施する。</p>									
<p>達成目標に対する実績 【達成目標】各年参加者数50名以上</p>									
<p>活動指標に対する実績 【活動指標】参加加盟校数10校/年</p>									
<p>自己評価基準：対到達目標※</p>									
<p>自己評価基準：対継続性※</p>									
事業収支	収入	支出		収支		支出	収支		
理事会からの改善提案（次年度事業計画に反映）									
<p>※自己評価基準：対到達目標</p>		<p>4：当初計画を上回って達成 3：当初計画を達成 2：当初計画をやや下回った 1：当初計画を下回った</p>			<p>※自己評価基準：対継続性</p>		<p>4：本プログラムは継続すべき 3：本プログラムは継続しても良い 2：本プログラムの継続には改善が必要 1：本プログラムは中止すべき</p>		

【2026年度 学生交流委員会 (③取組2-1)】加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報の実施

事業計画 (4月記載)		自己評価 (12月記載)			事業報告 (3月記載)				
<p>■地域の活性化に関わる加盟校学生の取組事例の紹介</p> <p><目的> 加盟校からの情報提供をもとに、学生の地域での活躍を広く発信することで、学生の活動に対する社会的理解を深め、地域社会との連携および協働を促進する。</p> <p><内容> 大学コンソーシアムひょうご神戸のウェブサイトにて、加盟校の学生による地域の活性化に関わる取組事例を公開する。また必要に応じて、各種メディアやSNS等を活用した告知を展開する。</p> <p><取組予定> 加盟校からの寄稿に基づき、大学コンソーシアムひょうご神戸公式noteにて「地域で輝く学生」と題した記事を連載し、活動の背景や成果を紹介する。note記事は学生交流委員会ページに時系列または加盟校別で整理する。学生が執筆した記事は加盟校にて内容を確認のうえ寄稿する。また、Instagramのリール動画を活用してダイジェストを公開し、noteの本編記事へと誘導する動線を構築する。</p>									
<p>達成目標に対する実績 【達成目標】 情報公開数200取組以上/5年</p>									
<p>活動指標に対する実績 【活動指標】 各加盟校からの情報提供：年1回以上 情報公開数：40取組以上/年</p>									
自己評価基準：対到達目標※									
自己評価基準：対継続性※									
事業収支	収入		支出		収支		支出		収支
理事会からの改善提案 (次年度事業計画に反映)									
※自己評価基準：対到達目標		4：当初計画を上回って達成 3：当初計画を達成 2：当初計画をやや下回った 1：当初計画を下回った			※自己評価基準：対継続性		4：本プログラムは継続すべき 3：本プログラムは継続しても良い 2：本プログラムの継続には改善が必要 1：本プログラムは中止すべき		

【2026年度 学生交流委員会 事業予算】

(単位：円)

	予算	各プログラム 予算		委員会 予算	
		③取組1	③取組2		
		テーマ型の学生交流プロジェクト 「WILL BEプロジェクト」 キッズフェスティバル	加盟校・学生の地域活性化に関わる 取組広報の実施		
収入	会費収入	1,350,000	1,050,000	200,000	100,000
	助成事業収入	0			
	受託事業収入	0			
	プログラム収入	0			
	雑収入	0			
	戻入金	0			
	計	1,350,000	1,050,000	200,000	100,000
支出	会議費	30,000	20,000		10,000
	旅費交通費	50,000	30,000	10,000	10,000
	通信運搬費	190,000	40,000	130,000	20,000
	消耗品費	90,000	80,000		10,000
	新聞図書費	0			
	印刷製本費	100,000	100,000		
	光熱水料費	0			
	賃借料	69,000	50,000		19,000
	保険料	0			
	謝金	0			
	租税公課	0			
	支払手数料	11,000	10,000		1,000
	諸会費	0			
	委託費	160,000	70,000	60,000	30,000
	人件費	0			
	接待交際費	0			
	支払支援金	650,000	650,000		
	雑費	0			
	計	1,350,000	1,050,000	200,000	100,000

収入－支出	0
-------	---